

第1章 本市を取り巻く状況

1-1 社会情勢の整理

①環境問題の顕在化

地域社会は、CO2の排出による地球温暖化の問題や、エネルギー資源の確保の問題、ゴミ処理に伴う環境問題などと合わせ、身近に残された自然環境を保全していこうとする意識の顕在化など、地球にやさしい生活の重要性に気づきはじめました。

私たちが生活する地球は、ある程度の再生能力を有していますが、人間の体の健康と同様に治癒できるものと、いったん壊れたら元に戻らないものがあります。

21世紀の社会は、国、地域、家庭、個人のレベルでこうした地球の環境（人間の体）の問題に本気で取組み、持続性のある地球・地域環境を形成していくことが求められています。

②少子高齢化の進行

本市を含め周辺市町村においても少子高齢化が進行しています。少子高齢化とは65歳以上の老年人口が15歳未満の年少人口を上回るとともに、15～64歳の生産年齢人口が減少していくことです。

生産年齢人口が減少していくことは、地域社会の活力を低下させていくことにつながることから、都市の経済基盤の安定・強化が急務となります。

また、今後さらに高齢者が増加していくことは明らかであり、まちのユニバーサルデザインを急ぐとともに、子育て環境づくり、ひとにやさしいまちづくりなどが求められています。

③外国人との共生

本市の現状特性として、企業の外国人雇用に伴う外国人人口の増加、駅南の中心市街地等での外国人居住や外国人向けの店舗立地・ビジネス展開の進行があります。

都市づくりの課題として、今後少子高齢化に伴い生産年齢人口が減少する中、産業振興を支える上で外国人雇用は必要性が高いこと、一方で急進的な外国人人口の増加は、教育、医療、社会保障などの面で市の人的・財政的負担を伴うことなどがあげられます。

また、外国人居住に伴う近隣住民との生活習慣上の問題、駅南の中心市街地及び古井地区等における既存の商店街などと外国人向け店舗等との関係といった課題もあげられます。

外国人労働者の定住化が進むことを前提に、外国人との共生の視点が重要であり、行政による外国人との共生に向けた制度・体制づくり（教育・就労環境の整備、外国人の自助組織の支援、外国人青少年の育成等）、地域における外国人居住者との交流促進、行政や地域と外国人を雇用する企業との協力体制の確立などにより、外国人を含めた市民すべてが住みやすく、ともに活力ある都市づくりを推進することが求められます。

④東海環状自動車道の開通

東海環状自動車道は、7つの高速道路（東名、名神、中央、東海北陸、第二名神、第二東名、東名阪）を結ぶ道路であり、平成17年3月19日に東ルートの約73kmが開通しています。

この道路は、東海環状都市帯の地域、特に「元気な中部」の源である西三河地域と本地域を連絡するいわば新たな「地域産業軸」ともなる路線であり、この東海環状都市帯にかかるすべての都市が中部の産業連携をとりながら発展することが求められています。

⑤高度情報化の進行

岐阜県IT戦略では、「すべての県民がITにより豊かな生活を実感できる社会」の実現を目指しています。

IT専門家の養成や情報社会インフラの整備と合わせ、安全、安心、便利、快適、活力ネットワークを形成し、「日本一住みよいくさと岐阜県」の実現が求められています。

⑥危機管理の強化

本市も含め岐阜県南部の可茂地域は、愛知県に隣接する地域として、平成15年12月に「東南海・南海地震防災対策推進地域」の指定を受けており、地震防災対策の推進が必要となっています。また、地震災害と合わせ、風水害などの自然災害に対しても、市民の生命と財産を守るための施策を積極的に推進する必要があります。

このため、森林の持つ水源涵養機能や山地災害防止機能を踏まえた優良森林の保全や水害防止を図るための河川整備を進めるとともに、市街地の延焼防止、避難地・避難路の確保、市街地の建築物の耐震強化など様々な災害対策が求められています。

⑦周辺地域との連携

美濃加茂市は、可児市、加茂郡（坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村）、可児郡（御嵩町）の2市7町1村で可茂地域広域行政圏を形成し、消防をはじめ環境衛生、保健医療、教育等、広域性を必要とする行政需要について一部事務組合等を設立して取組んでいます。

今後は、広域化する行政課題への対応及び効率的な行政運営への対応を図るため、地域資源の広域的活用を図る「ソフトの展開」や広域的対応となる「ネットワークの展開」などが求められています。

⑧住民主体のまちづくり

これまでは行政が中心にまちづくりを行ってきましたが、これからは住民主体のまちづくりが必要となっています。

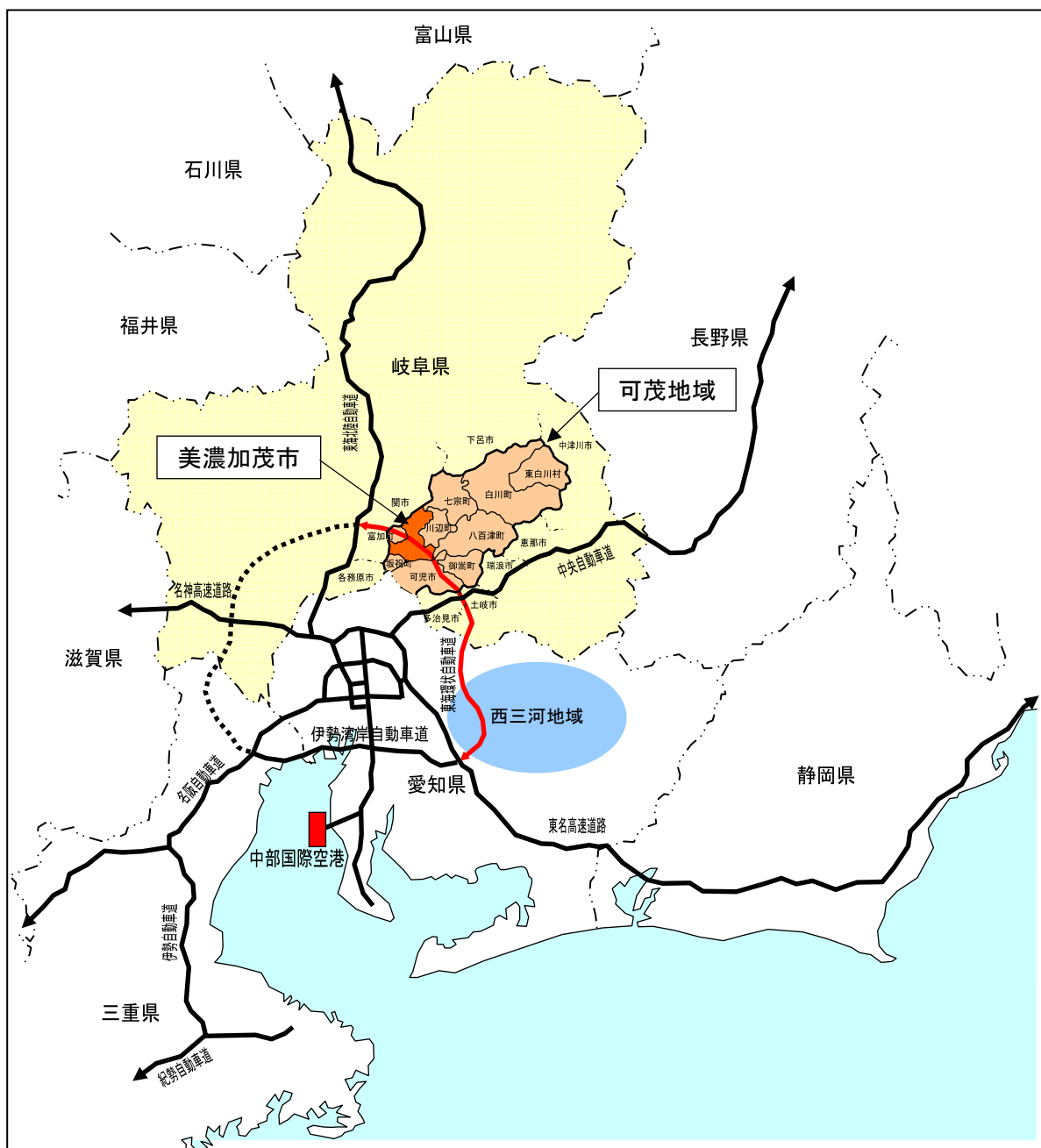
美濃加茂市都市計画マスタープランでは、住民の意見や提案を反映したより身近な計画とするため、策定過程において「地域別まちづくり懇話会」を設け、住民との話し合いにより、マスタープランをつくっていきます。

1-2 中京圏、可茂地域における位置づけ

本市は、岐阜県中南部の「可茂地域」にあって、北は飛騨や奥美濃の山並みに面し、南は木曾川沿いの肥沃な低地である濃尾平野に位置しています。

また、立地としては、飛騨や奥美濃の玄関口に位置しているため、古くから交通の要衝として宿場町を形成してきました。

現在の交通としては、J R高山本線、J R太多線、長良川鉄道による越美南線、国道 21 号、国道 41 号、国道 248 号に加え、平成 17 年 3 月 19 日に東海環状自動車道の東ルート約 73 kmが開通し、愛知県の西三河地域や中部国際空港等とのつながりが強化されています。



■ 中京圏、可茂地域における位置づけ